

[37_3] 図書館情報 : 九州大学附属図書館報 :
37(3)

<https://doi.org/10.15017/10683>

出版情報 : 図書館情報. 37 (3), pp.35-48, 2002-03-31. 九州大学附属図書館
バージョン :
権利関係 :

九州大学附属図書館報

図書館情報

The Kyushu University Library Bulletin

Vol. 37, No. 3 (2002)

新入生特集号

——【目 次】——

勉強するなら図書館へ行こう 新入生図書館ガイダンス.....	36
新入生のための図書館利用案内.....	38
OPAC ってどんなもの?	41
Webcat ガイダンス	42
検索エンジン活用法.....	43
図書館で利用できるデータベース紹介.....	44
自著紹介.....	45
本学関係者著作寄贈図書.....	48



九州大学開学記念行事「ヨーロッパ製古地図から見たアジア・日本・九州」展
平成14年5月9日(木)～15日(水) 於：中央図書館

勉強

するなら図書館へ行こう

- 新入生のための図書館ガイドンス -

喜田 拓也

皆さん、ご入学おめでとうございます。

これから、数年間にわたる大学生活が始まります。人によっては、十年以上もの長きにわたって学習・研究を行うことになるでしょう。そのような長期間の大学生活を無駄に費やさないために、皆さんに一つアドバイスをしたいと思います。それは「勉強するなら図書館でやろう」ということです。

古くから「大学は、真理を探求する場所である」といわれています。今日のネットワーク社会においては「大学は、学問文化を蓄積し、新たな知識を創生し、教育を通じて伝承させる場所である」といえます。大学図書館は、大学が果たすべきこのような機能を土台から支えてきました。

大学図書館が提供するものは書誌だけではありません。学習するための場所とサービスも提供しています。これらを有効に利用しない手はありません。図書館に通うことが習慣になれば、卒業時には豊かな知識と教養を身につけていることでしょう。

それでは以下に、本学附属図書館を効率よく活用するための、簡単なガイドンスを書くことにします。

九州大学附属図書館は、大正11年に九州帝国大学附属図書館として設置されました。今年は記念すべき80周年を迎えます。附属図書館は、箱崎地区にある中央図書館と、皆さんが入学後すぐ利用することになる六本松分館、病院地区にある医学分館、そして昨年筑紫地区に新たに設置された筑紫分館を中心に、各学部・研究科・学科・専攻単位にある多くの図書室から成立っています。

現在、附属図書館の蔵書数は約350万冊であり、このうち約190万冊が和漢書で、残りの約160万冊が洋書です。学術雑誌は約73,000種類あり、毎年25,000種類以上を受け入れています。

大学図書館には実に様々な図書資料があります。中には非常に貴重な書籍もあります。古文や歴史の授業などで出てきたような有名な書籍も多数ありま

す。専門的な図書になりますが、大型コレクションと呼ばれるまとまりのある蔵書も多数集められています。最近では、授業の概要を書いたシラバスに載っている参考書などもほとんど揃っています。

学部や学科等の図書館や図書室には、新しい専門書を中心に配置されています。医学分館は、全国医学・生物学系外国雑誌センター館として指定され文部科学省からの特別な予算によって、世界中の関連分野の雑誌が網羅的に収集されています。また、ビデオテープやCD/DVD-ROMなどの電子媒体の資料も増えており、中央図書館にはAVコーナーが新たに設置されています。

21世紀は、ネットワークを通じて誰もが情報発信を行い、またそれら膨大な情報が再利用される時代です。適切な情報を効率よく検索し、自らの生活に活用し、また新たに価値ある情報を世界に向けて発信することが一層重要となってきます。そのためのスキル、すなわち、情報リテラシーを学ぶことは、皆さんにとって生涯役立つ技術を会得することになります。附属図書館では、情報基盤センターと緊密な協力のもと、電子図書館の構築と情報リテラシー教育を行っています。

各図書館内には、インターネットに接続可能なパソコンが設置され、図書館が提供する電子媒体資料や文献データベース、蔵書検索システムなどを利用することができます。皆さんは、図書館内にあるそれらのパソコンや情報処理教育センターのパソコン、あるいは自宅のパソコンを使って、これらのサービスを受けることができます。

まずは、本学附属図書館のホームページ(<http://www.lib.kyushu-u.ac.jp/>)にアクセスしてみてください。そこから驚くほど多くの情報を得ることができることに気づくでしょう。実際、九州大学にある蔵書を検索するならOPAC(Online Public Access Catalog)を使って瞬時にできます。非常に古い図書を探

す場合は、図書カードを手繰る必要がありますが、九州大学では他大学に先駆けて「図書目録カードイメージ検索システム」を構築しており、現在インターネット上でテスト公開しています。

もし必要な書籍が学内になければ、NACSIS Webcatを使ってみましょう。Webcatで所在を調べ、必要な手続きをすれば、それを所有する他大学からコピーを取り寄せたり、借り受けたりすることもできます。資料の調べ方が分からないときにはレファレンスデスクへ相談に行きましょう。問題解決のアドバイスが受けられます。

皆さんが専門の研究を始めるようになれば、図書館が提供している文献データベースや電子ジャーナルが、研究に欠かせない非常に役立つツールであることに気付くでしょう。理科学系データベースのWeb of ScienceやSciFinder Scholar、医学系のMEDLINE・EBMR、国内最大の雑誌・論文情報データベースであるMAGAZINE PLUSなどを用いれば、本学だけでなく世界中の研究者の研究活動を知ることができます。

これらインターネット上における図書館のサービスを効率良く活用してもらうために、「情報検索講習会」を昨年度の春・秋に設け、各種データベースや蔵書検索システムの詳細な使い方を学ぶ講習会を行ってきました。今後、こうした講習会を定期的で開催したり、要望に応じて常時開催したりできるような体制を整えていきたいと考えています。また、インターネット上で、上述したような情報リテラシーの学習を支援するシステムの構築にも取り組んでいます。

附属図書館のホームページからは、さらに、九州大学所蔵の「枕草子」や、グロティウス著「戦争と平和の法」初版本、「蒙古襲来絵詞」、「ヨーロッパで作成されたアジアの古地図」など、数多くの貴重資料の画像を閲覧することもできます。

図書館や図書資料に関する探索のために、まず本学附属図書館のホームページを訪問することを強くお奨めします。

このように、多くの情報がネットワークを通じて手に入る時代になりました。しかし、図書館に直接足を運び、そこで探し学習し調べ物をするのは、時代を超えて重要な行為であるように思います。図書館はそのための場所を提供しています。中央図書館の閲覧室には約670席、六本松分館では約720席、

医学分館で約260席の座席が用意されています。平成9年から中央図書館・六本松分館において休日開館を実施しており、また昨年10月からは、中央図書館で平日夜10時までの開館時間延長を試みています。

多くの図書に囲まれ、ゆったりとして静かで、しかし利用者同士が作り出すある種の緊張感のある閲覧室は、皆さんが勉強する場所としては、自宅とはまた違った良い環境ではないかと思えます。

このような知的環境を保つために、図書館では幾つか厳守していただきたいルールがあります。以前は館内へのバッグ持ち込みは禁止されていましたが、利用者の便を考え、現在ではバッグの持ち込みを許可しています。もちろん、図書を借りる際は、かならず貸出受付カウンターで手続きを行った上で帯出してください。それから館内での飲食は禁止しています。決して飲食物を持ち込まないようにしてください。携帯電話については、他の利用者の迷惑になるので、館内では必ずマナーモードもしくは電源を切っておくようにしましょう。

また、館内はすべて禁煙です。トイレの中も例外ではありません。喫煙者を発見した場合は、利用停止処分にすることもありますので注意してください。六本松分館には、玄関横に喫煙室があります。

この他、幾つか注意事項がありますが、それらはカウンターあるいはホームページ上にある利用案内を参照してください。

どの図書館も試験の時期には利用者が多く、閲覧室は試験のための勉強をする学生で満席状態になります。皆さんがこれからの1年半あるいは2年の間に主に使うことになる六本松分館の年間の利用者数は、約22万人です。計算すると平均して1人の学生が5～6日に一回は図書館を利用していることになります。ですから、一週間に一回も図書館に行っていないようであれば、勉強が疎かになってきていると考えたほうが良いでしょう。

入学当初から、一週間に一度は何か具体的な目的を持って図書館に行くことを心がけてください。また、時には何の目的もなく図書館へ行き、静かに書庫を歩き、時折本を取り出してみるのも良いでしょう。思いがけない発見と出会うかもしれません。新たな勉学の意欲もわいてくるものと思えます。

(きだ たくや 附属図書館研究開発室講師)

新入生のための図書館利用案内

図書館はどのようなところか

現在の図書館は、図書館という名称こそ使っていますが、本や雑誌を読むことに加え、インターネットで情報収集したり、収集した情報をパソコンで加工したり、ビデオ・DVDなどマルチメディアを利用するなど情報センター的側面も強くなってきています。

勿論、全学で約350万冊の図書と約7万種の雑誌もあなた方の利用を待っています。

入館する

学生証で入館できます。入館ゲートに学生証に印刷されているバーコードを読みとらせて入館してください。カバン類もそのまま携帯して入館できます。

入館したフロアが2階になります。



開館時間

平日（月～金）	9時～22時
土曜・日曜・祝祭日	10時30分～18時

本を探す(情報を探す)

本を探す場合は直接書架で探すか、探す本の書名や著者名が分かっている場合は館内のパソコンで検索すればその本が図書館内にあるかどうか、あればどこにあるかがわかります。このオンラインで図書を検索するシステムはOPAC (Online Public Access Catalog) と呼ばれています(「OPACってどんなもの?」を参照してください)。

OPACで見つからなかった場合は目録カードで探してみてください。古い本はまだデータベースに登録されていなくてOPACで検索できない場合があります。

OPAC検索は、2階と3階の「情報サロン」に設置しているパソコンや「参考図書閲覧室」のパソコンで行えます。

なお、「参考図書閲覧室」ではCD-ROMにより提供される各種データベースを検索できますし、「情報サロン」のパソコンではインターネット経由で様々な情報を得ることもできます。

本を読む

開架閲覧室（3階）には、皆さんが学習するための本や学習用座席を数多く用意しています。

また、参考図書（辞書、事典、地図等）で調べものをするときは参考図書閲覧室（2階）、新聞や趣味の雑誌等を読みたいときはブラウジング・ルーム（2階）、学術雑誌は新着雑誌閲覧室（2階）でご覧になってください。

洋・和雑誌、新聞、新聞縮刷版等のバックナンバーは「書庫1階」に、中央図書館の古い本、理学部・農学部の本は「書庫地階」に配架しています。

本を借りる

正面出入口の「貸出・返却カウンター」で借りたい本に学生証を添えて手続きしてください。

	貸出期間	貸出冊数
図 書	15日間	図書・雑誌 合計10冊
雑 誌	8日間	



返却期限後も引き続き借りたい場合は更に

1回だけ貸出延長できます。なお、「新着雑誌閲覧室」、「参考図書閲覧室」、「ブラウジングルーム」の資料は貸出ができませんので注意してください。

本を返す

借りた本は必ず返却期限内に、開館時は「貸出・返却カウンター」まで、また閉館時は玄関前に設置されている「返却ポスト」に返却願います。返却が遅れると遅れた期間だけ借りることができなくなります。また、図書館の本は大事な利用者の共有財産ですので、なくさないようくれぐれも注意願います。

質問・相談する

図書館のことで分からないことがあれば、「貸出・返却カウンター」の職員に尋ねてください。ここでは貸出・返却以外に、図書館の総合案内もおこなっています。

また、レファレンス・デスク（2階）では、専門的な調べもののお手伝いをいたしますし、相互利用カウンター（2階）では、本学が所蔵していない資料の利用について相談をお受けします。

複写する

図書館資料を複写したい場合は、複写センター（2階）内にコイン式複写機4台を設置していますのでご利用ください。

AV資料をみる

3階「AVコーナー」では、ビデオ、DVD、カセットテープを利用することができます。ほとんどの資料(ソフト)はこのコーナーに置いてありますので、各自自由にソフトを選んで利用してください。

グループ学習する

2人以上が共同で学習するための部屋として「演習室」を設けています。予約制ですので、利用したい方は「貸出・返却カウンター」の職員に申し出てください。

海外放送を視聴する

3階国際交流コーナーでは、アジアの国を中心に海外の衛星放送を視聴することができます。以上が簡単な図書館利用案内ですが、より詳しい情報は図書館ホームページの利用案内をご覧ください。また「貸出・返却カウンター」にも利用案内リーフレットを置いてありますのでご利用ください。



図書館 利用マナーに ついて

最後に図書館を利用される際のマナーについてのお願いです。

図書館は多数の方が様々な目的で利用されていますが、お互い気持ちよく利用できるように以下のことについて充分留意願います。

館内では飲食・喫煙禁止です。

館内では静粛に願います。特に閲覧室内では会話厳禁です。

携帯電話はマナーモードにしたうえ、使用される場合は3階ロビーに設置してある、携帯電話ボックス内にてお願いします。

OPACってどんなもの？

1. なにそれ？

OPAC (オーパック) と言われて、なにを思い浮かべますか？ Online Public Access Catalog の頭文字を略して、OPAC。平たく訳せば、オンラインでみんなが利用できる目録、でしょうか。実際のイメージに即して言えば、探している本が図書館にあるかどうか、またどこにあるのか、調べることのできる Web ページ、といったほうが分かりやすいかもしれません。

2. 目録って？

目録 (カタログ) というのは、たくさんある品物の簡単なデータをリストにして、調べやすくしたものです。九州大学には中央図書館だけでなく、分館や図書室がたくさんありますから、特に目録の存在が重要となります。OPAC 以前の主役はカード目録でした (今も使っています) ところが、カード目録は初心者には難しい面があります。これに対して、直感的に誰でも使えるのが OPAC。データとして登録されていれば、どんなものでも検索の対象となるわけですから、例えばタイトルの真ん中の単語だけで検索する、ということも可能なのです。複数のキーワードで絞り込んで検索することもできますし、目録のデータだけでなく貸出状況もわかります。

3. 使ってみよう！

では、実際に OPAC を使ってみましょう。まず小難しいことは抜きにして、なにか本のタイトルでも打ち込んで、検索してみてください。ヒットしましたか？ 該当件数 0 件、と表示されたら、その本は九州大学には所蔵されていません (あるいは、キーワードの入力方法が間違っています)。ヒットしたようなら、リンクをたどってみましょう。詳しい情報がわかります。



本についての情報は、大きく 2 つに分けることができます。

タイトルであるとか著者であるとか、本そのものについての情報。これを書誌情報と呼びます。そして、どこの図書館 (室) にあるのか、書棚のどこに並んでいるのかという情報。これを所蔵情報と呼びます。OPAC では、罫線を挟んで上下に分けて表示されますが、本を探し当てるためには所蔵情報が必要です。

まず、「所在場所」のところを見てみましょう。本がある場所について、略称でもって表示されます (詳しい情報や問合せ先はリンクをたどってください)。そして一般に、図書 (単行本) は「請求記号」(ラベルに印刷して背表紙に貼ってあります) の順番に、雑誌はタイトルのアルファベット順にならんでいます。各館 (室) で事情が異なりますから、それぞれの Web ページをご覧ください。

(検索語の入れ方などの詳細は、「検索語の入れ方」や図書館作成のマニュアルをご覧ください)

URL : <http://www.lib.kyushu-u.ac.jp/opac/index-1.html>

NACISIS Webcat

検索ガイド

九州大学の附属図書館では約図書140万件、雑誌7万タイトルを検索することができますが、それ以外の資料を探す必要もでてくるでしょう。

NACISIS Webcat を使うことにより幅広い資料を検索し、資料を所蔵する全国の大学図書館等を表示することができます。

九州大学にない資料を利用したいと思った場合、直接所蔵館へ行って利用するか、あるいは相互利用(ILL/DD=InterLibrary Loan / Document Delivery)と呼ばれるサービスにより、他の図書館の所蔵する図書の貸出や複写物の送付を依頼することができます。

NACISIS Webcat とは

NACISIS Webcat (ナクシス・ウェブキャット)とは、全国の大学図書館などが所蔵する図書・雑誌を、インターネットで24時間いつでもどこでも検索できるサービスです。



検索の仕方

書名や著者名ははもちろん、出版者や件名、分類からも検索できます。

検索語は、漢字・カタカナ・ひらがな・ローマ字のどれでもかまいません。

目的の資料を持っている全国の図書館が表示されます。

九州大学附属図書館ホームページに Webcat (<http://webcat.nii.ac.jp>)へのリンクがあるので、利用してください。



書誌情報・・・タイトル、著者名、資料の同定・識別に必要な情報です。

タイトル/著者名<タイトルの読み> .
(NCID)左の画面の黒枠で囲んでいる部分

所蔵情報・・・各図書館の所蔵状態についての情報のことです。

所蔵館略称(所蔵図書館は略称で表示されます) 所在場所、請求記号、資料番号の順に並んでいます。

九州大学から相互利用サービスを利用する場合、申込窓口は以下の3箇所となります。

中央図書館	相互利用掛	TEL .642 - 2334
医学分館	相互利用掛	TEL .642 - 6039
六本松分館	閲覧掛	TEL .726 - 4552

インターネットでの情報収集のための

検索エンジン活用法

喜田拓也・南 俊朗



情報検索講習会では、効率の良い検索の仕方について様々なテクニックを解説します。ここではその中から、ウェブ上の検索に関するエッセンスの部分をかいつまんでお話ししたいと思います。

意味の分からない言葉がある。あの商品の店頭価格はいくらが相場なのか。ある事柄についてレポートしなければならない。今日の夕飯は何にしようかな…。今日では、どんなことでもインターネットを使って調べることができます。しかし、インターネットで効率よく調べ物をするには、ある程度の経験と技術が必要です。

もし既に、求めたい情報が掲載されているウェブサイトを知っているなら、直接そのサイトにアクセスするでしょう。しかし、自分にとって全く未知の事柄を調べるには、検索エンジンのサイトにアクセスし適切なキーワードを入力することから始めなければなりません。求める情報がうまく見つければ良いのですが、見つからなかった場合はどうすれば良いのでしょうか。

すぐに思いつくことは、入力したキーワードを変えてみることです。あるいは、キーワードを増やしたり、組み合わせを変えたりすることも有効です。例えば、今 J-Phone の携帯電話と au の携帯電話のどちらの人気の高いかを調べたいとします。キーワードとして「携帯電話 人気」と入力してもうまくいきません。「探したいことが見つからない! どうしてコンピュータは私の思ったとおりのことをしてくれないの!」と叫ぶ前に、別のキーワードを試してみましょう。まずは「J-Phone」「au」といったキーワードを付け加えてみたり、「人気」を「加入者数」と変えてみたりします。「J-Phone」は「Jフォン」の方が適切かもしれませんが、「携帯電話」もより専門的に「移動体通信サービス」としてみると良い結果が得られるかもしれません。

このように、良い検索結果を得るためには適切なキーワードを選択することが大事です。最初に思い

ついたキーワードだけでなく、その同義語・類義語・関連語を検討してみましょう。また、自分が求めているウェブページに含まれていると思われる言葉を連想し、それをキーワードに用いると、精度の良い検索結果が得られます。例えば先ほどの例でいうと「事業者別累計」などをキーワードに加えてみるのが良いでしょう。

それでも満足な検索結果が得られないときは、別の検索エンジンを使ってみましょう。ウェブでの検索に慣れている人ならば、むしろ、探し求める情報の種類によって適切な検索エンジンを選ぶことから始めます。著者らは、使いやすさと性能の点から Google(図1)を好んで用いています。場合によっては Yahoo! Japan やフレッシュアイなど、他の検索エンジンも活用します。各種検索エンジンの特徴を知り、複数の検索エンジンを自在に使い分けることができれば、一つのエンジンしか使わない人よりも格段に広くウェブの世界を探索できるでしょう。



図1 : Google(www.google.com)

—— 図書館で利用できるデータベース紹介 ——

附属図書館のホームページから利用できるデータベースの代表的なものを紹介します。

MAGAZINEPLUS

MAGAZINEPLUS は、一般・総合誌から、専門的な学術雑誌、経済誌など、さまざまなジャンルの逐次刊行物（14,000誌）の記事情報を収録したデータベースです。キーワードでの検索に加え、最新収録誌の目次情報を一覧することができます。国内最大の雑誌・情報論文データベースです。

DNA(Digital News Archives)

朝日 DNA は、朝日新聞（1984年8月から）、AERA（創刊号から）、週刊朝日（2000年4月から）の記事を、当日の朝刊まで（地方版も！）調べることができる記事データベースです。

カレントコンテンツ

学術研究を行い高い業績を修めるためには、必要な情報を短い時間でいかに効率よく入手するかがポイントになります。しかしながら、研究分野の細分化により情報量が年々増え続ける今日、自分が必要とする情報（論文）がどの雑誌に掲載されているかを調べることは容易ではありません。

『Current Contents』は、世界の主要な雑誌約8,000種類の目次（contents）を収録したデータベースであり、雑誌名、著者名、テーマなど様々な角度から検索ができるので、「誰が」「どの雑誌に」「どんな論文を」発表しているのかといった最新の動向を調べることができます。

また、雑誌が到着する前に目次情報を見ることができることや、検索が簡単であることから、文献を探すための定番ツールとして国内、海外の多くの図書館や研究機関で利用されています。

Web of Science(Science Citation Index Expanded)

Web of Science は、通常の文献データベースと同様に主題検索ができることに加え、引用文献検索もできる Web サービスです。したがって、Web of Science では、「ある論文がどんな論文を引用しているか」、「ある論文がどの（誰の）論文に引用されているか」という、引用被引用の関係を、効率的に追うことができます。また、引用情報を元に文献の遡及的な検索(Cited Reference)ができるので、研究の流れ・展開が時系列に調べられます。

このデータベースは、自然科学、社会科学、人文科学の3分野から構成されていますが、本学では自然科学分野のものがご利用できます。その収録情報は、科学技術、医学、農学、工学その他の自然科学の広い分野にわたり、世界の主要な5,800タイトル以上の雑誌から収録され、毎週1,600レコードが追加されています。なお、本学では1980年からのデータがご利用できます。

*もっと詳しいことが知りたい方はホームページをご覧ください。また、使い方がわからない時はレファレンスデスクにお問い合わせください。

自著紹介

坂上 務 (農学部名誉教授)

『暦と星座のはじまり』

坂上 務著
河出書房新社 2001

[中央図書館 449 3 / Sa 34]

光と闇、朝と夜があってそれを1日とし、積み重ねた365日を1年としたのはどうして決まったか。空には太陽と月、夜空を見上げれば満天の星、それらは人が地球というこの小さい星が現れる以前から宇宙の大自然の法則に従って動いていました。

さて太陽系の中でやっとできた地球の上で、うまくチャンスが重なって命が誕生しついに人間が登場しました。

人の感性と自然の中で生き残っていくための必要から、星と星座にかかわってきた人類の永い文明の歴史があります、大宇宙という未知への興味と探求は人間の生活と幸福、進歩につながっているし、絶えざる努力と多くの迷路がありました。

遂に古代人は季節の移り変りを知り暦をつくり上げました。また星々を結んで夢とロマンを託して星座としました。

人と宇宙のかかわりを多くの貴重な資料から解明したものです。

嶋田洋一郎 (比較社会文化研究院・助教授)

『ヘルダー旅日記』

J.G. ヘルダー著
嶋田洋一郎訳
九州大学出版会 2002

[中央図書館 945 6 / H53]

この旅日記は、『言語起源論』などで知られるドイツの思想家ヨーハン・ゴットフリート・ヘルダーが1769年に、すなわち彼が25歳のときに書いた手記

であり、そこにはラトヴィアのリガからフランスのナントに向けての航海の途上や、ナントおよびパリ滞在中彼の心に呼び起こされたさまざまな思想や構想が自伝的記述とともに書き綴られている。

ヘルダーはこの旅日記を、18世紀のヨーロッパを中心とした自然学、哲学、歴史、宗教、文学、美学、言語、教育、政治、経済等に関する覚え書として書いており、その関心領域の広さと、人間性の形成を旨とする壮大な志向は、まさに思想家ヘルダーの核心を呈示するものといえる。

本書は、日記本文の和訳に、最新のヘルダー研究の成果をふまえた詳細な訳注と、作品理解を深めるための種々の伝記的資料を付したものであり、ヘルダーを知るための格好の入門書ともなっている。

円谷裕二 (人文科学研究院・教授)

『経験と存在 - カントの超越論的哲学の帰趨』

円谷裕二著
東京大学出版会 2002

[中央図書館 134 2 / Ts 24]

本書は、経験と存在の関わりという、哲学においてたえず問い直されつづけてきた問題について、カント哲学を手がかりにしながら考察したものである。経験と存在の関わりという場合に、「経験」と「存在」を結びつけている「と」は、あらかじめ相互に独立に成立している経験と存在とを後から結びつけるような「と」ではない。むしろ逆に、この「と」こそがあらかじめ経験と存在の関わりを関わりとして成り立たしめている事態である。本書の表題にある「経験」とは、特定領域でのみ客観的に妥当する自然科学的経験のみならず、存在するもの全体(世界)についての未規定的な経験とか、さらには自然や芸術作品についての美的経験、あるいは日常的経験をも含めての広い意味での経験を意味している。

このような広義の経験「と」存在の関わりに向けて、カントの超越論的哲学がどのように思索を展開しかつどれほどまでに接近しているのかという問題が本書の主題をなしている。

濱田耕策（大学院人文科学研究科・教授）

『新羅国史の研究 東アジア史の視点から』

濱田耕策著
吉川弘文館 2002

[中央図書館 035/H22][文学部図書室 学部長室/H22]

新羅(신라 illa /しらぎ/しんら)は、文献上ではおよそ3世紀半ばから10世紀初に滅亡するまで、初め韓国の東南部の慶州盆地を、やがて6世紀半ばでは福岡の対岸の慶尚南道までを、また7世紀末には今の休戦ラインのやや北から以南を治めた古代国家である。わが国では新羅を「しらぎ」と呼び慣わすのは都の金城(今日の慶州)即ち黄金の都市を「ソボル(서울 Soulソウル の古形)」と読んだことに由来する。この新羅を『日本書紀』は「宝有る国、譬(たと)へば処女の隊(まよびき)の如くにして、津に向かへる国有り。眼淡(まかかや)く金(こがね)・銀(しろかね)・彩色(うるはしきいろ)多(さは)に其の国に在り」と形容す

る。これは檀日宮(かしひのみや)において神が神功皇后に新羅征討を唆(そそ)ったとする段の表現である。博多湾の彼方の「宝有る国」とは国立慶州博物館の「三国時代・新羅」室に入るや即座に肯かれた方も多かるう。

この新羅国の歴史を探求することは朝鮮史の全体的な理解の基礎になるばかりでなく、古代の日本の歴史と文化の比較にもなって、我々の歴史の思考と知識を豊かにする。13件の論考で構成された本書の研究対象は、始祖神話に関連して4世紀後半の奈勿王に遡及するが、主として智証王代(6世紀初)から滅亡までである。また、研究視点は、この間の新羅は西に唐、北に渤海、東に日本と接した地理的な位置にあって、この多角的な政治と文化の通交の蓄積をもつ新羅国史は自己のみで完結した歴史としてこれを捉えることはできないこと、周辺の諸国や諸勢力との緊張と強調の関係に新羅の独自性が対面して国史が形成されたとする点にあり、ここから歴史形成に潜む諸問題を考察している。「神宮」「遣唐使」「倭典」「金春秋」「鴻臚館」「張宝高」「新羅使」など馴染みある歴史知識が新羅の歴史に則して解明される本書は「金銀の国」を今日に蘇生させる高度(高価であるが)な慶州の史蹟案内の書でもある。

人事異動

(平成13年11月から平成14年1月)

(中央図書館)

- 11. 1 海津佳寿美 (庶務掛) 育児休業
- ” 松尾 美栄 庶務掛(臨時的任用)
- 12. 31 北田 祥子 (データベース掛事務補佐員) 辞職
- 1. 12 山本 綾 (図書情報第二掛) 任期満了退職
- 1. 13 古賀 千明 図書情報第二掛(職務復帰)

(医学分館)

- 12. 1 宮岡 大輔 相互利用掛(採用)

図書館日誌

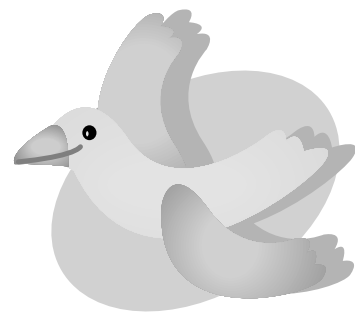
(平成13年11月～平成14年1月)

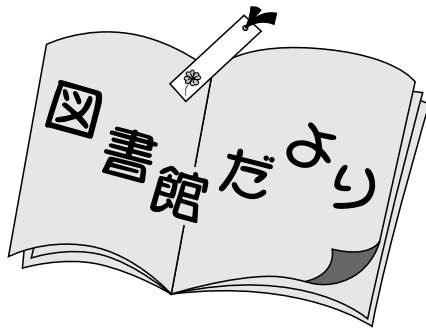
- 11. 1 情報検索講習会(中級編)各地区において実施(11月28日まで)
- 11. 6 平成13年度大学図書館職員講習会(～9日)(大阪大学)
- 11. 7 ワークショップ「学術コミュニケーションの最新動向」(国立情報学研究所)
- 11. 13 西洋社会科学古典資料講習会(～16日)(一橋大学)
- 11. 14 九州地区国立大学図書館長懇談会(中央図書館)
 - 〃九州地区国立大学附属図書館事務(部・課)長会議Ⅰ(中央図書館)
 - 〃九州地区国立大学附属図書館電子化推進連絡会議(中央図書館)
- 11. 15 九州地区国立大学附属図書館事務(部・課)長会議Ⅱ(中央図書館)
 - 〃九州地区国立大学附属図書館人事担当事務(課)長会議(中央図書館)
 - 〃平成13年度九州地区国立大学図書館協議会実務者連絡会議(九州工業大学)
- 11. 16 電子ジャーナル・タスクフォース会議(東京大学)
 - 〃新図書館検討ワーキンググループ会議(中央図書館)
- 11. 21 平成13年度第2回福岡県・佐賀県大学図書館協議会福岡地区研究会(中央図書館)
- 11. 28 第23回図書館建築研修会(日本図書館協会)
 - 〃第14回国立大学図書館協議会シンポジウム(西地区)(京都大学)
- 12. 6 学生用図書選定委員会(中央図書館)
- 12. 12 大韓民国の日韓共同理工系学部留学生事業担当者の来館
- 12. 13 第4回電子ジャーナルの導入に関する検討専門部会(中央図書館)
- 12. 17 館長会議(中央図書館)
 - 〃附属図書館商議委員会(中央図書館)
- 12. 28 仕事納め
- 1. 4 仕事始め
- 1. 7 附属図書館研究開発室業務成果報告会、館長講演(中央図書館)
- 1. 9 講演会「SPARCと日本の学術コミュニケーション」(国立情報学研究所)
- 1. 17 平成13年度国立大学附属図書館事務部長会議(山形大学)
- 1. 25 電子ジャーナル・タスクフォース会議(東京大学)

【記事の訂正】

Vol 37.No.2 p 34の本学関係者寄贈図書の記事中、
「事件からみた毒：トリカブトからサリンまで」の寄
贈者ならびに著者表記に誤りがありましたので、お詫
びして訂正いたします。

(誤)井上尚秀 (正)井上尚英





本学関係者著作寄贈図書

蔵書の充実を図るため、図書館では著作物刊行の節は一部ご寄贈くださるようお願いしております。今回は次の教官からご寄贈いただきました。厚く御礼申し上げます。

中央図書館

篠原 歩(大学院システム情報科学研究院助教授)
「Discovery Science : 4th International Conference, DS2001, Proceedings」
Klaus P. Jantke, Ayumi Shinohara (eds.)
Springer, 2001
[中央図書館 007 .13 / J23]

坂上 務(農学部名誉教授)
「暦と星座のはじまり」
坂上 務著
河出書房新社 2001
[中央図書館 449 3 / Sa34]

円谷裕二(人文科学研究院教授)
「経験と存在：カントの超越論的哲学の帰趨」
円谷裕二著
東京大学出版会 2002
[中央図書館 134 2 / Ts24]

嶋田洋一郎(大学院比較社会文化研究院助教授)
「ヘルダー旅日記」
J.G. ヘルダー著
嶋田洋一郎訳
九州大学出版会 2002
[中央図書館 945 6 / H53]

濱田耕策(大学院人文科学研究院教授)
「新羅国史の研究：東アジアの視点から」
濱田耕策著
吉川弘文館 2002
[中央図書館 035 / H22]
[文学部図書室 学部長室 / H22]

納富信留(大学院人文科学研究院教授)
「ソフィストと哲学者の間：プラトン『ソフィスト』を読む」
納富信留著
名古屋大学出版会 2002
[中央図書館 131 3 / N97]

筑紫分館

藤野武彦(健康科学センター教授)
「BOOCS 至福のダイエット革命」
藤野武彦著
講談社 1999
[筑紫分館 498 583 / F64]

「ブックスダイエット：生き生きとやせる 疲れた脳を癒す 肥満を科学する」
藤野武彦著
NECメディアプロダクツ 2001
[筑紫分館 439 .125 / F64 / A]

佐藤浩之助(応用力学研究所教授)
「現代プラズマ理工学」
関口 忠、佐藤浩之助著
オーム社 2001
[筑紫分館 427 6 / Se27 / A]

「プラズマ診断の基礎」
プラズマ・核融合学会編 佐藤浩之助著
名古屋出版会 1990
[筑紫分館 427 6 / P97]

小寺山 亘(応用力学研究所教授)
「海中技術一般」
(社)日本造船学会、海中技術専門委員会編
小寺山 亘著
成山堂書店 1992
[筑紫分館 558 / N71]

「超大型浮体構造物」
(社)日本造船学会、海洋工学委員会性能部会編
小寺山 亘著
成山堂書店 1995
[筑紫分館 517 / N71]